

# 技術情報カード



●●●●●  
技術情報カード No.62  
平成16年6月

徳島県立農林水産総合技術センター  
森林林業研究所

〒770-0045  
徳島市南庄町5丁目69  
TEL 088-632-4237  
FAX 088-632-6447



No.62

平成16年6月

## チェーンソー・刈払機の豆知識 —こんな時どうする?—

### はじめに

チェーンソーや刈払機を使用していて、急に調子が悪くなったり止まってしまったりしたことはありませんか。現場で機械が不調になると宝の持ち腐れになるばかりでなく、時間と労力の無駄になってしまいます。また、久しぶりに機械を使って作業をしよう、というときにエンジンがかからないで困ったことはありませんか。

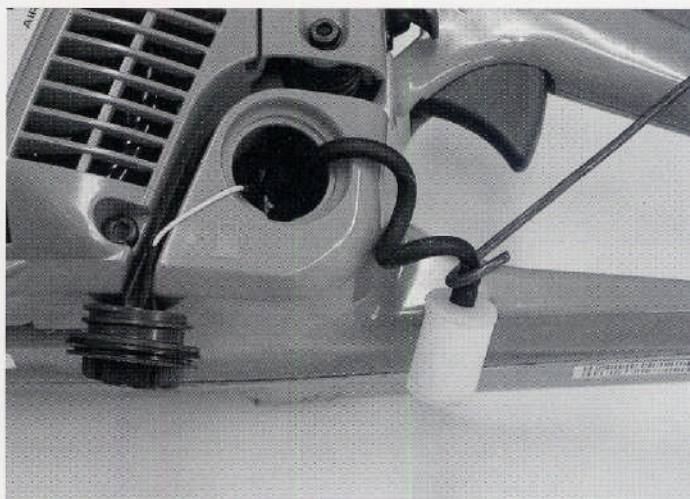
ちょっとしたメンテナンスやよく故障の原因となる箇所を覚えておくと、いざというときに役立ちます。

今回は、キャブレター部分を中心に、メンテナンスというような複雑なものはさておいて、修理に出す前にやってみて損はない豆知識をご紹介します。

### 1 エンジンがかかるのにふかすと止まる?

(1)燃料タンクの中には、機械をどんな姿勢で使っても燃料をキャブレターに送れるように「ストレーナー」が入っています。このフィルターに、ゴミが付着して詰まっていますか。詰まっていると、アイドリング時の少量の燃料は吸えますが、スロツ

トルを開いてエンジンをふかそうとするとそれ以上の燃料が吸えず、エンジンが止まってしまいます。ストレーナーは、燃料口からU字型にした針金を差し込み、取り出します。黒く変色しているようなら、取り外してガソリンか混合油で洗います。(2)また、ストレーナーを取り付けている柔らかいゴムチューブが腐食して切れかかっていたり穴があいていたりしていませんか。燃料の変質等によりこのゴムチューブは腐食します。途中で穴があいてしまうと、機械の姿勢により燃料が吸えなくなり、エンジンが止まってしまいます。腐食していれば取り替えてください。





(3)最後に、チェーンソーや燃料タンクのキャップにある空気穴（逆止弁）が詰まっていますか。燃料タンクのキャップには、機械を逆さまにしても燃料が外にこぼれず、また、燃料が消費されるに従って外部からの空気が補給されるような逆止弁がついています。これが詰まると、外からの空気が燃料タンクの中に入ってこなくなりますから、燃料が吸えずエンジンが止まります。細い針金で掃除してください。なお、機種によっては、空気取り入れ口が直接キャップにはなく、別の場所から取り入れる「ブリーザー」が設けられたものもあります。

## 2 長期格納時の保管方法

チェーンソーや刈払機を、長期間（1か月以上位）使わない場合の保管方法について説明します。この場合の方法は2つあります。

### (1)燃料を空っぽにして保管する方法

燃料を全部捨て、燃料タンクを空っぽにします。次にエンジンをかけ、エンジンが自然に止まるまで動かします。これは、キャブレターの中に残っている燃料まできれいに消費させるためです。エンジンが止まったら、冷えるのを待って、エンジン部分をすっぽりおおえる位の袋をかぶせ、直射日光が当たらない場所で保管します。

保管後、次に使用する時は、使う日の1日位前に燃料を入れておきます。

### (2)燃料を満タンにして保管する方法

保管する前に、燃料タンクを満タンにして前述のとおり保管します。

次に使用する時には、満タンにした燃料をいったん全部捨て、新しい燃料を入れてから始動します。

(1)、(2)とも、キャブレター内に残った混合燃料のガソリンが蒸発して、オイルだけが残り、エンジンに燃料を供給する燃料孔をふさいだりするのを防ぐために、このような状態にして保管します。2サイクルエンジンを使用した小型ウインチなどを長期格納する場合も同様です。

なお、ウインチなどで無線機がついているものについては、充電バッテリーをはずして保管してください。

## 3 長期保管後エンジンがかからない時の裏ワザ

さあ、久しぶりに間伐をしよう、と思ってチェー

ンソーを引っ張り出してエンジンをかけようとしてもかからないとなると、気持ちは焦るし氣勢をそがれます。こんな時、次のことをちょっと試してみてください。格納する前まで調子よく動いていたものなら、息を吹き返すかもしれません。

### (1)振ってみる

今、入っている古い燃料を捨てて新しい燃料を入れます。そして、機械を振ってください。ひたすら、強く何回も振ってください。しばらくしてエンジンをかけると、不思議とかかる場合が多いのです。

### (2)ひなたぼっこをさせる

同じく、いま入っている古い燃料を捨て、新しい燃料を入れます。そして、中の温度が上がるようにエンジン部分をゴミ袋などでおおい、日向へしばらく置いておきます（直射日光の強い時期は時間に注意して熱くなるまで置かない）。暖まった頃を見計らって、エンジンをかけてみてください。かかりましたか？

実は先にも述べましたが、長期格納後にエンジンがかからない、というトラブルの原因は、キャブレターの中に残っていた燃料によるものが一番多いのです。

キャブレターの中には、燃料をエンジンに供給するための弁が2つあります（インレットバルブとアウトレットバルブ）。これが閉じたり開いたりして燃料を送るのですが、長期間使わないと、残った混合燃料に含まれるオイルによって、この弁がくっついてしまい、動かなくなってエンジンへ燃料が供給されない、というわけです。

振ったり暖めたりするのは、くっついた弁を、外からの物理的な力や燃料の膨張作用によって、再び動くようにするためです。

## おわりに

機械の状態によって、労働強度も変わってきますし、安全面にも大きくかわってきます。今回は、紙面の都合で3つしかご紹介できませんでしたが、機会があればもうちょっと複雑な、自分でできるメンテナンスをご紹介したいと思います。

### ◆内容に関するお問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術センター  
森林林業研究所 主任専門技術員 伊賀上 朗  
TEL 088-632-4237 FAX 088-632-6447